

今月の技術対策 (畜産編FAX情報)

留萌農業改良普及センター・留萌地区農協酪農畜産対策協議会

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

その他情報も
HPで公開中!

生産抑制時の技術対策①

～子牛の管理③ ほ乳の3原則：定時定量定温～

ほ乳は必ず、定時・定量・定温を守りましょう

ほ乳期間は子牛の成長と反芻機能の発達に関わる重要な期間です。

毎日決まった方法でほ乳作業を行い、ストレスや消化不良の原因となるのを防ぎましょう。

1 定時

毎日決まった時間、回数、タイミングで給与しましょう。

2 定量

1日4～6ℓ（朝夕2回ほ乳の場合は1回につき2～3ℓ）を目安に給与しましょう。

※ルーメンの発達のため、生後1週間頃からスターターの給与を必ず行いましょう。

※水は代用乳給与後30分以上空けて給与しましょう。

※メーカーが定めた濃度を守りましょう。

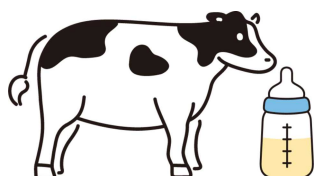
3 定温

子牛が飲む時、母乳と同じ温度（38～40℃）になるようにしましょう。

季節（外気温）に合わせて、融解するお湯の温度を調節すると良いです。

季節毎の推奨融解温度

季節	湯温
春～秋	45～50℃
冬	48～53℃



・温度が低すぎると・・・

代用乳に含まれる油脂が融解せず、消化不良や下痢の原因となります。

・温度が高すぎると・・・

代用乳に含まれる脂肪やタンパク質が破壊・変性し、消化不良や下痢の原因となります。